

管理職となった女性は幸せなのか

Are women working in management positions happy? : Evidence from Japan

佐藤一磨* (拓殖大学政経学部)

Kazuma Sato (Takusyoku University Faculty of Political Science)

ksqwt864@gmail.com

日本人口学会第74回大会 報告要旨

我が国では労働力不足や男女間格差の解消を背景として、女性活躍推進策が進められてきた。この結果、公務員及び民間企業で管理職として働く女性の割合が徐々に増加している。このような女性管理職の増加は、社会の大きな流れとして今後も続くと予想されるが、管理職となることが女性にどのような影響を及ぼすのかという点はあまり検証されていない。中でも女性の主観的厚生に及ぼす影響に関する研究は少なく、その実態は明らかになっていない。もし管理職への昇進が女性の主観的厚生を向上させている場合、さらに女性活躍推進策を推し進めることが望ましい。しかし、もし管理職への昇進が女性の主観的厚生を悪化させていた場合、女性活躍推進策について注意深い検討が必要となる。これらの点を検討するためにも、本研究は正規雇用で働く女性の管理職への昇進が主観的厚生に及ぼす影響を検証した。使用データは慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センターが実施した『日本家計パネル調査(JHPS/KHPS)』、『消費生活に関するパネル調査』、そして、大阪大学が実施した『くらしの好みと満足度についてアンケート(JHPS-CPS)』である。これらの複数のデータを用いた分析の結果、Pooled 推計では管理職女性の幸福度が高い傾向にあるが、観察できない個人属性を考慮した Fixed Effect モデルでは管理職女性の幸福度が高いという傾向は確認できなかった。この結果から、もともと幸福度の高い女性が管理職になるといったセレクションバイアスが発生している可能性がある。

* 拓殖大学政経学部准教授